



TITLE:

欧米におけるオープンサイエンス  
動向調査 --学術情報発信ネクスト  
ステージへ-- <平成27年度 大学図書  
館職員短期研修 グループ討議報告  
書 第6班>( presentation資料 )

AUTHOR(S):

小野, 恵理子; 松井, 直; 上床, 亜衣; 本村, 悠介; 橋田,  
香織; 山下, 真佑美; 仲秋, 雄介

---

CITATION:

小野, 恵理子 ...[et al]. 欧米におけるオープンサイエンス動向調査 --学術  
情報発信ネクストステージへ-- <平成27年度 大学図書館職員短期研修  
グループ討議報告書 第6班>. 2015

ISSUE DATE:

2015-10-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200651>

RIGHT:

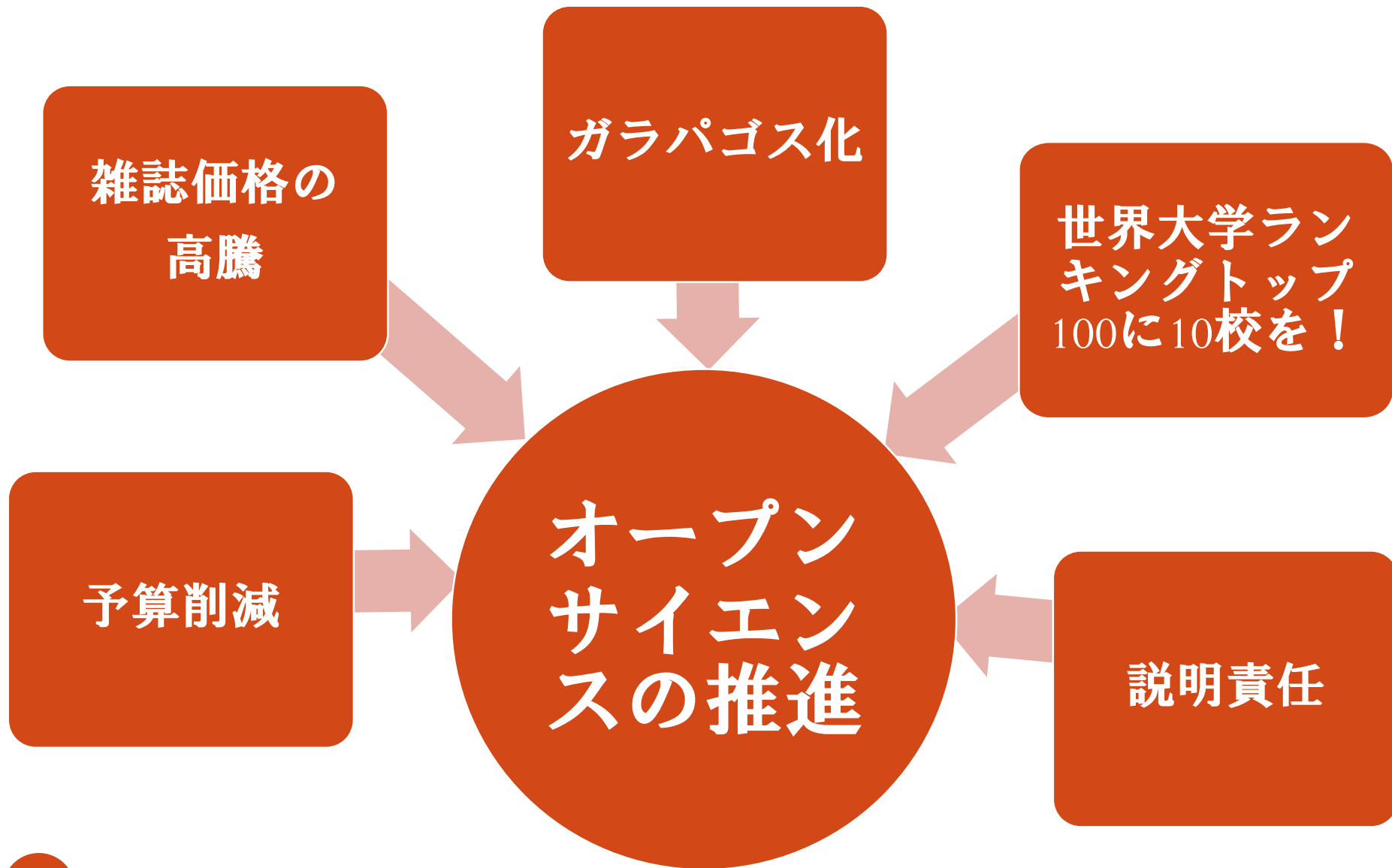
# 欧米におけるオープンサイエンス動向調査 ～学術情報発信ネクストステージへ～

**テーマ：海外調査研修計画を企画立案する**

**第6班（小野、松井、上床、本村、橋田、山下、仲秋）**

- **本プレゼン対象者は、大学本部予算担当部署**
  - **派遣希望者は、教員1名、職員2名の計3名**
- 教員：臨機応変かつ研究者目線の質問**

# 大学を取り巻く現状



# オープンサイエンスとは何か？

**公的研究資金を用いた研究成果（論文、生成された研究データ等）について、科学界はもとより産業界及び社会一般から広く容易なアクセス・利用を可能にし、知の創出に新たな道を開くとともに、効果的に科学技術研究を推進することでイノベーションの創出につなげることを目指した新たなサイエンスの進め方**

我が国におけるオープンサイエンス推進のありかたについて  
～サイエンスの新たな飛躍の時代の幕開け～

2015年3月30日 国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会より



## 研修概要

# オープンサイエンスの動向調査

- ・ オープンアクセスポリシー
- ・ 研究データマネジメント

# なぜ海外？

- 対外的な報告には現れない過程を知りたい
- コネクションを作り、今後も相談・協働できる関係を作る

# なぜ今？

- 「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」報告書（内閣府）
- 大学間競争に勝ち抜く

# 研修先

## 1、アメリカ

- ・ハーバード大学
- ・マサチューセッツ工科大学
- ・デューク大学
- ・カンザス大学
- ・パデュー大学

## 2、ベルギー

- ・リエージュ大学



# 研修先①

ハーバード大学（米：マサチューセッツ州ケンブリッジ）

選定理由：

ハーバードモデルと呼ばれるオープンアクセスポリシーを採択し、このモデルは米の大学で採択されている。よって、本テーマにおいて骨子となる大学である。

＊ハーバードモデル3つの柱

1、許可

2、権利放棄

3、デポジット

# 研修先②

マサチューセッツ工科大学 (米：マサチューセッツ州ケンブリッジ)

デューク大学 (米：ノースカロライナ州ダーラム)

カンザス大学 (米：カンザス州ローレンス)

選定理由：

ハーバードモデルを採用しているため、  
導入事例を収集する。

# 研修先③

パデュー大学（米：インディアナ州ウェストラファイエット）

選定理由：

- ・ 研究データリポジトリ
- ・ 研究者のデータ管理支援

# 研修先④

リエージュ大学（ベルギー：リエージュ）

選定理由：

ハーバードモデルとは異なるモデルを構築している。

＊リエージュ

- ・ 著者（研究者）に全責任  
（図書館はサポートのみ）

# 効果

- **オープンアクセスポリシーの事例収集**
  - 自学でのオープンアクセスポリシー制定のリーダーシップをとることができる。
  - 実務の変化に対する予測が可能になり、対応策を具体的に事前に考案できる
- **研究データマネジメント事例収集**
  - 研究データマネジメント体制の提案をすることができる。

# これからの本学



**競争的資金、  
勝ち取りましょう！**

- ・ 自学の研究成果発信強化
- ・ 留学生獲得につながる（グローバル化）
- ・ 社会への研究成果の還元
- ・ 研究への信頼性の向上

**本学の学術情報発信を次のステップに進め、  
国際化に対応した研究支援体制を構築し、  
教育・研究・社会貢献のレベルアップを図ります！**

# 参考情報

- 中村 高昭 . 国際的な競争力が求められている大学. 立法と調査. 2014 ,357, pp.62-71
- 林和宏 . リエージュ大学から学ぶOAポリシー策定方針（第2回SPARC Japan セミナー 2014「大学におけるOAポリシー: 日本版OAポリシーモデル構築に向けて」平成26年9月26日）
- スチュアート・M・シーバー . ハーバード大学オープンアクセス方針について. 国立情報学研究所国立大学図書館協会共催シンポジウム「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」（平成22年12月10日）
- 国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討. 「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」報告書（内閣府 平成27年3月）
- 林和弘. 世界のオープンアクセス、オープンサイエンス政策の動向と図書館の役割. カレントアウェアネス. 2015, (324)
- 池内有為. 研究データ共有時代における図書館の新たな役割：研究データマネジメントとデータキュレーション. カレントアウェアネス. 2014, (319), CA1818, p. 21-26.
- 国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会報告書公開後 国内外の動向（参考資料1 オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会（第1回）平成27年7月17日）